



本州北西端目指して
北浦家族旅行①

正月明けに次女夫婦の宿泊施設を利用する
と四人で北浦を車で旅 際、一万円の旅行券を
した。気持ち若いの 五千円で発売した。大
だが、国が言う後期高 変な人気ですぐに完売
年齢者、車を自分で運 したという。
しての長旅は疲れる。 そんなものが発売さ
年寄り扱いされるのは れたことも知らなかつ
嫌だが、子供が運転し たが、今、山口県は平
ての車旅は気まままで 成三十年の明治維新百
である。 五十年に向けて観光



下関市豊北町の風力発電

発端は、娘が「やま キャンペーンに力を入
ぐち幕末ISHIN旅 れており、写真のよう
行券」を買ったこと。 な「おいでませパスポ
地域起こしの一環で県 ト」を発行している。
が国の助成を得て県内 旅行券もその一環らし

い。
娘は早朝からコンビニ
二に並んでこの旅行券
を買い、私たちを県内
ならどこにでも連れて
行くってくれるという。
ことはほとんどない。
年齢を考えると、海外
より、疲れない身近な
県内の旅も悪く
ない。というより、
自分が育った山口
県のことを余り知
らないことに気づ
く。

一番うれしいの
は家族旅行。核
家族化が進み、
血縁といっても家
族関係も社会全
体の影響を受けて
か、希薄になる
傾向にある。娘
夫婦と旅ができる
のがうれしい。妻
と話し合い、自
分で運転して行く
には遠い、最北西
端の北浦を旅す
ることにする。

長い間、自分
関市であることが何
つ失われて

を泊まりがけで旅した
ことほほとんどない。
年齢を考えると、海外
より、疲れない身近な
県内の旅も悪く
ない。というより、
自分が育った山口
県のことを余り知
らないことに気づ
く。

今回の旅はすべて娘
夫婦にまかせた。とは
いえ、どんな所を旅す
るのか、少し内緒で事
前準備をする。

そこで二つ気づいたの
は「平成の大合併」だ。
車で徳地を通って山口
市に向かう際、いつも
思うのだが、今は「徳
地」は山口市なのだ。
自分の中には佐波郡徳
地町というイメージが
あり、どうも徳地が山
口市というのがなじめ
ない。

同様に、今回訪れた
本州最西端の角島が下
関市であることが何
つ失われて

が家族の中心であった。
卑屈になるつもりはな
いが、これからはもう
子供たちの時代、その
ことを心の片隅に持つ
ていた方が家族の和が
保たれるだろう。

ピンとこない。
調べてみると、平成
の市町村合併で全国三
千二百三十二の市町村
が半分近くの二千七百
三十になったという。
行財政基盤を強化する
というのが合併の目的
なのだろう。とにかく
豊浦郡、美祢郡、佐
波郡、都濃郡などの各
町がなくなり、合併し
て「市」になった。

山口県でこんな風景
を見ようとは夢にも思
わなかった。

いくよんで寂しい感じ
がする。
そんなことより「灯
台下暗し」。自分が知
らない山口県、特に北
浦地方にそれが多い。
豊北の山を見てびっく
りしたのが写真の風力
発電の風車が林立して
いること。



おいでませパスポート